

■ 参加申込み

- (1) 申込み及び問い合わせ先  
 独立行政法人 国立特殊教育総合研究所 総務部総務課企画係  
 〒239 - 0841 神奈川県横須賀市野比5-1-1  
 TEL 046-848-4121 内線213(又は214)  
 FAX 046-839-6918  
 E-mail kikaku@nise.go.jp
- (2) 申込み要領  
 別紙参加申込み書(様式)に必要事項をご記入の上、FAXまたはE-mailで、お申し込みください。
- (3) 申込み期間  
 平成17年12月16日(金)～12月22日(木)  
 (12月15日以前は受け付けません。先着順にて定員になり次第締め切らせていただきます。)
- (4) 定員 700名
- (5) 参加費 無料
- (6) 昼食 構内の施設等をご利用ください。
- (7) 宿泊 宿泊が必要な場合は、各自で手配してください。
- (8) その他 録音・撮影はできませんので、ご留意願います。



〔交通案内〕

- 小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約5分
- 京王帝都バス  
 新宿駅西口(16番)より <参宮橋下車>  
 渋谷駅南口(14番)より <参宮橋下車>
- 地下鉄千代田線 代々木公園駅下車 徒歩約15分  
 [代々木公園西門出口]

国立オリンピック記念青少年総合センター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号 TEL. (03) 3467-7201 (代表) FAX. (03) 3467-7797

# 一人一人の子どもの 特別な教育的ニーズに応えるために —小・中学校における支援の実際と今後の在り方— 参加のご案内

- ◆ 期 日 平成18年1月17日(火)～1月18日(水)
- ◆ 会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
- ◆ 定 員 700名
- ◆ 主 催 独立行政法人 国立特殊教育総合研究所

国立特殊教育総合研究所では、支援の必要な子どもの教育が充実・発展することを目指し、本研究soの研究成果等特別支援教育に関する情報の普及と共有のために毎年セミナーを開催しております。

本年度のセミナー I では、小・中学校を中心に教育的支援のあり方について現状と今後の展望を考えていきます。特別支援教育の基本的な理念に立って今後を展望する基調講演と、それを踏まえての小・中学校における支援を特別支援教室(仮称)のあり方との関連から考えていくシンポジウムを行います。さらに2日目の各分科会では、コーディネーターの役割、通常の学級における配慮や指導、個別の教育支援計画の作成、支援体制のそれぞれのテーマで、研究成果を踏まえながら小・中学校における教育的支援について議論を深めていく予定です。

特別支援教育の基本的な考えを踏まえつつ常により良い教育実践を目指していくための一助となるよう本セミナーを企画いたしました。

多くの方々のご参加をお待ち申し上げております。

国立特殊教育総合研究所セミナー I 実行委員長 渥美 義賢

日 程

<第1日目>平成18年1月17日(火) (カルチャー棟大ホール)

	12:00	13:00	13:15	14:45	15:00	17:45
	受付	開会	基調講演	休憩	シンポジウム	

<第2日目>平成18年1月18日(水) (カルチャー棟大ホール、小ホール)

9:00	9:30	12:00	13:30	16:00
受付	第1分科会 第2分科会	休憩 (昼食)	第3分科会 第4分科会	

■案内は本研究所のホームページ (<http://www.nise.go.jp/>) にも掲載しております。

● 基調講演 「特別支援教育の目指すもの」(仮)

講師：宮崎英憲 (東洋大学文学部教授)

中央教育審議会において、「特別支援教育」の制度検討がなされています。そこでは、具体的な「特別支援学校(仮称)」や「特別支援教室(仮称)」などについて見解が示されました。現行の教育制度を踏まえつつ、次なる段階へ着実に動き出そうとしています。

ノーマライゼーション社会に向けて、我が国が動き始める中、「特別支援教育」が、日本の教育の中でどのような意義や可能性を有しているか、考察してみたいと思います。

● シンポジウム 「特別支援教室(仮称)の機能と今後の展望」

これからの特別支援教育は、従来の特殊教育の対象者だけでなく、小・中学校で学習する軽度発達障害のある児童生徒をどのように支援するかということが最も重要な課題です。本シンポジウムでは、「軽度発達障害児への支援」「特別支援教室(仮称)の体制」「個別的教育支援計画の活用」「特別支援教育コーディネーターの役割」の研究成果から、「特別支援教室(仮称)」の機能を確認しながら、今後の展望を協議します。

(シンポジスト)

1 特別支援教室(仮称)の体制

藤本裕人 (国立特殊教育総合研究所)

2 特別支援教育コーディネーターの役割

松村勘由 (国立特殊教育総合研究所)

3 個別的教育支援計画の活用

西牧謙吾 (国立特殊教育総合研究所)

4 軽度発達障害児への支援

渥美義賢 (国立特殊教育総合研究所)

(指定討論者) 柘植雅義氏 (文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官)

宮崎英憲氏 (東洋大学文学部教授)

司会：田中良広 (国立特殊教育総合研究所)

● 分科会

第1分科会  
テーマ

特別支援教育コーディネーターの役割  
—校内体制の機能と盲・聾・養護学校への期待—

小・中学校での支援体制の整備と個別な支援の推進に関わり、特別支援教室(仮称)構想を展望しながら、特別支援教育コーディネーターの役割を考えていきたいと思ひます。

小・中学校でのコーディネーターの実践、盲・聾・養護学校のコーディネーターの実践をお話いただき、支援のリソースとしての特別支援教室(仮称)の役割、それを支える特別支援学校(仮称)のセンター的機能の在り方について協議します。さらに、指定討論者からは、学校間の連携の在り方と教育センター・教育委員会の取り組みなどをお話いただき、全体をまとめていきます。

(話題提供者) 小田浩伸氏 (大阪府教育センター特別支援教育室指導主事)

瀧本一夫氏 (大阪府立守口養護学校教諭)

仲村康子氏 (守口市立錦中学校教諭)

三浦昭夫氏 (横須賀市教育委員会指導主事)

高杉江里子氏 (横須賀市立公郷小学校教諭)

(指定討論者) 須田正信氏 (大阪府教育センター特別支援教育研究室室長)

司会：大杉成喜 (国立特殊教育総合研究所)

第2分科会  
テーマ

LD、ADHD、高機能自閉症等の通常の学級における配慮と指導

小・中学校に在籍するLD、ADHD、高機能自閉症等の子どもに対する通常の学級における支援の在り方と可能性について、プロジェクト研究の成果と通常の学級における指導事例をもとに協議します。特に、通常の学級でどのような支援がどこまで可能か、そして学級全体の指導の中にどのように位置づけられるか検討していきます。さらに個別的な指導が望ましい点やその指導法について、特殊学級や通級指導教室の弾力的運用も含め、特別支援教室(仮称)の在り方等とも関連付けながら考えていきます。

(報告者) 篁倫子 (国立特殊教育総合研究所)

(話題提供者) 楠原薫氏 (神戸市立井吹東小学校教諭)

松枝恒至氏 (横浜市立南台小学校教諭)

永野和子氏 (横浜市立戸塚小学校教諭)

(指定討論者) 黒川君江氏 (東京都文京区立小日向台町小学校教諭)

篁倫子 (国立特殊教育総合研究所)

司会：笹森洋樹 (国立特殊教育総合研究所)

第3分科会  
テーマ

子どもの教育的ニーズに支援の見通しを立てる  
—小・中学校における個別的教育支援計画—

小・中学校には様々な教育的ニーズのある子どもたちが学んでいます。特別支援教育が推進される中、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導と必要な支援を行っていくために、放課後や長期休暇などをはじめ、家庭や地域での生活を見据えて、家庭や地域の様々な社会資源と協力して子どもを見る視点が学校に求められています。本分科会では、子どもの家庭や地域での暮らしと育ちを基盤に、子どもが必要としている支援を教育の観点からどのように組み立てていったらよいのかを考えます。また、子どもへの支援を組み立てることが家庭や地域、社会資源にもたらすものについても考えたいと思ひます。

(話題提供者) 吉田久美子氏 (福井県清水台保育園主任)

齋藤亮一氏 (福井県立清水養護学校教諭)

小西修悦氏 (秋田県美郷町立六郷小学校校長)

松井克彦氏 (秋田県立大曲養護学校教育専門監)

花田伸和氏 (神奈川県秦野市立東中学校教諭)

安藤正紀氏 (神奈川県教育委員会指導主事)

山口滋美氏 (神奈川県立総合教育センター研修指導主事)

(指定討論者) 日詰正文氏 (長野県精神保健福祉センター言語聴覚士)

(コーディネーター) 滝坂信一、大内進 (国立特殊教育総合研究所)

第4分科会  
テーマ

小・中学校における障害のある子どもへの支援体制の構築  
—特殊学級及び通級指導教室の弾力的運用の可能性を探って—

本研究では、今後の小・中学校における障害のある子どもへの教育の支援体制を踏まえ、現在の「特殊学級」や「通級指導教室」の機能等に注目し、その弾力的運用を含めて、実態把握を行っています。さらに、小・中学校における障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに対応した指導資料の作成に取り組んでいます。このセミナーにおいては、これまでに実施した実態調査等の結果をもとに構想した「特別支援教室(仮称)」「(案)」について報告します。

それをもとに、小・中学校での特別支援教育に向けた取り組みを視野に入れた「特殊学級」や「通級指導教室」の弾力的な運用について協議を深め、さらに、校内支援体制から地域内支援体制の構築についての方向性を探ります。

(報告者) 藤本裕人 (国立特殊教育総合研究所)

(話題提供者) 長谷川清氏 (新潟県上越市立飯小学校校長)

三上哲徳氏 (青森県弘前市立第三中学校教諭)

佐藤悟氏 (青森県弘前市立第三中学校教諭)

高橋邦夫氏 (新潟県上越市教育委員会学校教育課長)

(指定討論者) 廣瀬由美子 (国立特殊教育総合研究所)

石塚謙二氏 (文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特殊教育調査官)

司会：武田鉄郎、久保山茂樹、後上鐵夫、棟方哲弥 (国立特殊教育総合研究所)